

# 男女のあり方の固定観念を覆す ～家庭の役割分業改革～

## テーマ

背景: 高校生にとって一番身近な家庭での男女問題について探究しようと思ったから

目的: 「女性は家庭」という固定観念がある現状を変えること。

SDGsとの関連: 家庭でも男女が平等であるべきだという私達の考え方が関連している



## プロジェクト

目標: 男性は家庭の仕事を「手伝う」のではなく女性と「一緒にする」ものであるという考え方を広める

評価基準: ①自分達の考えとアンケート結果を比較して、わかりやすくまとめることができたかどうか

②アンケート結果と自分たちの結果をもとに家事の役割分担を作成できた

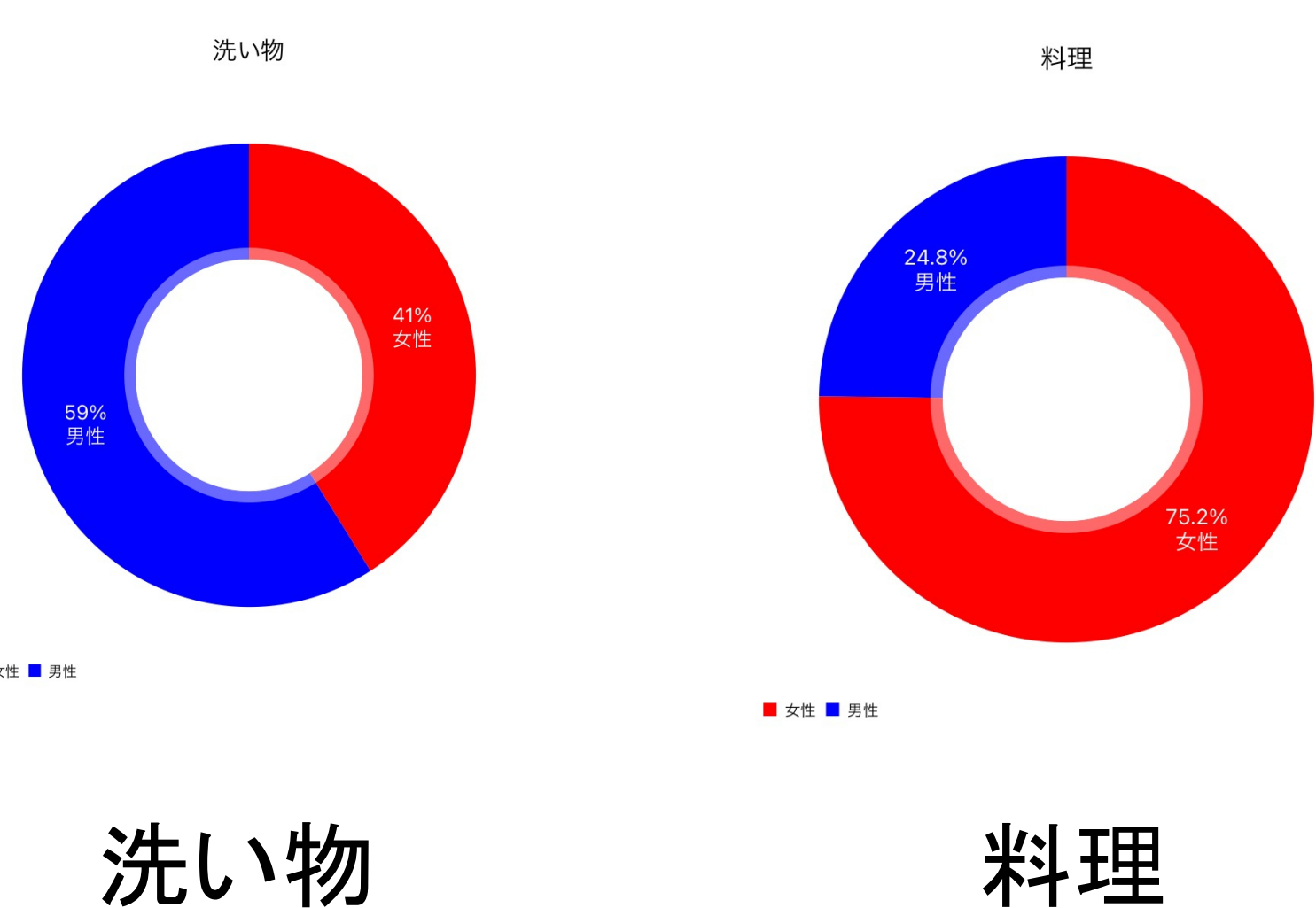
計画: アンケート作成→実施→集計・まとめ→役割分担作成

## 実施内容

西高校の教師を対象にアンケートの作成・実施

＜アンケート内容＞  
年齢 性別 配偶者・子の有無 共働きか  
現在の家事分担の状況  
理想の役割分担

＜現在の役割分担＞

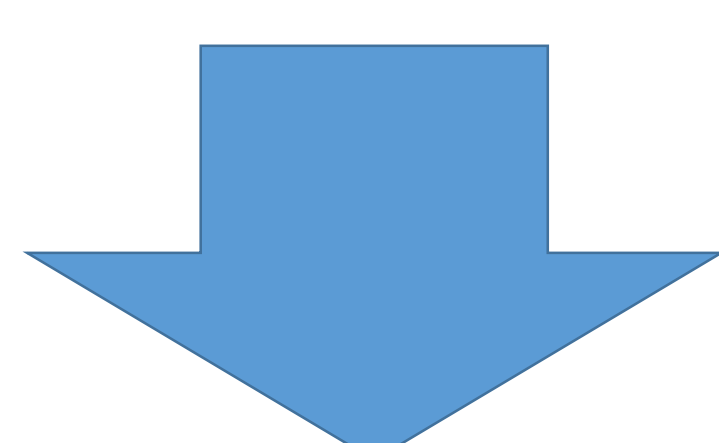


※図1

女性が一番割合の多い家事→料理  
男性の " → 洗い物

＜その他の項目＞

掃除 子供の世話 買い物 洗濯 その他



- ・ほとんどの項目で女性が担っている割合が多い
- ・男性は単純で簡単な家事、女性は複雑な家事をしている

## 家事役割分担表

女性	男性
・掃除(リビング等)	・掃除(お風呂場)
・料理	・洗い物(食器洗い)
・洗濯(回す・干す)	・洗濯(畳む・片付け)
・子供の世話 etc...	・子供の世話 etc...

＜アンケート回答者の理想＞

- ・半々にする
- ・時間に余裕がある人がする
- ・当番制 etc...

＜最適な役割分担表の作成＞

アンケートの結果と自分たちの考えをもとに作成

＜作成時の気を付けたこと＞

- ・男女の家事の比率を5:5になるようにする
- ・アンケートの結果から女性の比率が高かった家事を、うまく男性に振り分けれるように、同じ家事でも場所・することなどに細かく分類して分担する

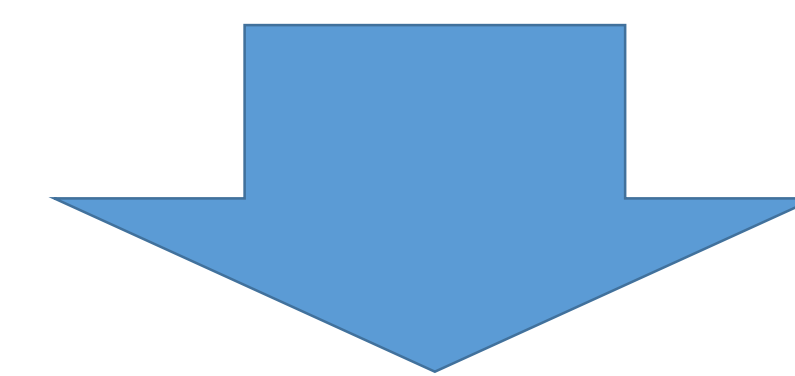
## ＜成果・まとめ＞

・私達は男性も女性も家事を分担して行うべきだと考えていたが、家庭によっては役割分担をする必要がないと考える場合もあることがわかった



・家庭の状況(子供の人数、仕事内容など)に合わせて、自分たちに最適な家庭の在り方を考えていく必要がある。

・各家庭で共通の固定された役割分担は無く、家族の中で誰がどの家事に適しているかは家庭を持った立場にたってみないと分からない



＜今後の課題・展望＞

・この取り組みの結果からプロジェクト目標を達成できたとは言えない。自分たちの作った役割分担表を評価してもらうことができなかった。  
アンケートの内容に不備があったため、プロジェクト目標達成のために入手すべきだった男性の家庭の仕事での考え方を調査できなかった



・呼びかけのポスターやパンフレットの作成・配布

＜参考文献＞

- ・<https://www.sole-kochi.or.jp/info/dtl.php?ID=1380&routekbn=5>
- ・赤松良子(2005)「女性の権利ハンドブック女子差別撤廃条約」. 岩波書店